

## 平成28年度 第1回 地域公共交通会議議事録

日時：平成28年6月24日（金） 午後1時30分～午後2時30分

場所：有田市役所4階 市長応接会議室

（出席委員） 成川満、後藤孝行、森下孝一、大山茂（代理：山本）、  
田中守、中本満、橋中保、高垣太郎（代理：上平）、  
森下清司、西村芳通、田村政博、鹿島久義、雑賀宗博、  
加藤智美（代理：今井）

（欠席委員） 北村修、高瀬秀彰

（出席事務局職員） 嶋田経営管理部長、大松経営企画課長、石井まちづくり係長、馬場まちづくり係主事

（議 事）

議案第1号 平成27年度決算の承認について

議案第2号 平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について

### 1. 開会（事務局）

ただいまより、平成28年度第1回有田市地域公共交通会議を開催いたします。本日はお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日は過半数以上の委員さんの出席をいただいておりますので、本会議設置要綱第5条第2項により本会が成立いたしましたことをご報告申し上げます。

それでは、まず始めに成川会長よりご挨拶よろしく願いいたします。

### 2. 会長挨拶

皆さん、どうもこんにちは。

委員の皆様にはお忙しいところ、ご出席いただきまして、ありがとうございます。

有田市デマンドバスの運行につきましては、委員の皆様方にご協議、ご検討いただきまして、地域内フィーダー系統確保維持計画に基づきまして、計画的かつ効果的な事業実施を行っているところでございます。

デマンドバスも早や9年目の運行を迎えておりまして、今後とも市民の皆様々に地域の公共交通機関として親しまれるように努めていきたいと思っております。

つきましては、本日、平成27年度決算も含め、今後の当会議の運営や地域公共交通機関のあり方について、活発にご協議していただくよう、よろしくお願い申し上げます。

本日は皆様、ご苦勞様でございます。よろしくお願いいたします。

### 3. 委員紹介（事務局）

ありがとうございました。新年度となりまして、委員様方におかれましても、職場の人事異動等により委員の交代がございました。この度新たに7名の方に委員にご就任いただきましたので、事務局より委員様全員をご紹介させていただきます。

（委員紹介）

委員様におかれましては、今後とも当会議の運営にご協力の程よろしくお願い申し上げます。

ます。

それでは、本会議設置要綱に基づき会長に議長をお願いし、議事に移らせていただきます。成川議長よろしくお願いたします。

#### 4. 議事

(成川議長)

それでは早速ですが、議事に移らせていただきます。

本日の議事は、議案2件となっております。

まず、議案第1号「平成27年度決算の承認について」を事務局より説明願います。

(事務局説明)

議案第1号「平成27年度決算の承認について」をご説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。当会議の平成27年度決算報告ということで、歳入といたしまして、有田市からの負担金30,432円となっております。2.の繰越金につきまして、27年度はありませんので、0円となっております。また、3.諸収入といたしまして広告料収入等で194,795円となっております。以上、歳入合計で225,227円となっております。続きまして、歳出といたしまして、1.運営費の会議費で30,000円、事務費といたしまして432円、2.事業費としまして、先ほどの広告料収入等の194,795円を事業者の中紀バスさんに支出しております。3.予備費はありませんでしたので、歳出合計といたしまして225,227円となり、歳入・歳出同額となっております。それから、バス運行に関する国庫補助金は、事業者の中紀バスさんが直接申請をして、直接中紀バスさんに入りますので、それ以外の経費、当会議の運営経費の決算報告ということになります。

また、資料の3ページにデマンドバスの平成27年度収支実績も参考につけさせていただきます。収入につきましては、運賃収入で2,201,400円、国庫補助金が27年度下半期分で5,677,000円、28年度上半期分で4,559,000円、合計12,437,400円となっております。支出につきましては、運転手の人件費で6,335,066円、一般管理費人件費で2,256,483円、燃料代978,083円、バスの修繕費1,812,560円、車両使用料6,480,000円、合計17,862,192円となり、差し引き5,424,792円の赤字となっております。先ほど説明しました当会議から支出しています広告料収入につきましては、これ以外の経費、利用促進にかかる経費や事務費に充てられております。

ご質問、ご意見等をいただく前に「要綱第10条第3項」の規定に基づき、2名の監事様に監査して頂いておりますので、竹中監事よりご報告をお願いいたします。

(監査報告)

(成川議長)

ただいま監査報告が終わりました。平成27年度有田市地域公共交通会議の決算について、ご意見・ご質問はございませんか。

(成川議長)

私の方から質問させていただいて構いませんか。3ページのデマンドバスの実績ですが、マイナス分については運行事業所が負担しているという考え方でよいですか。

(事務局)

はい、今のところそのような状況です。

(成川議長)

他にご意見ございませんか。

(意見及び質問なし)

(成川議長)

特にご意見が今のところないようですので、議案第1号平成27年度の決算につきまして、ご異議ございませんか。

(異議なしの声)

(成川議長)

それでは、議案第1号「平成27年度決算について」はご承認いただきました。

それでは引き続き、議案第2号「平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について」を説明願います。

(事務局説明)

それでは、地域内フィーダー系統確保維持計画の概要から説明いたします。バスの運行経費に対する国庫補助金を活用するためには、本計画を法定協議会である当会議で策定、承認をいただいて、毎年6月末までに国土交通省に提出しなければなりません。

フィーダー系統とは、バスの停留所、鉄道駅、海港及び空港において、地域間交通ネットワークと接続する系統をいいます。地域間交通ネットワークとは、複数の市町村間にまたがる公共交通網のことであり、有田市デマンドバスは、JR箕島駅で鉄道と乗り継ぎできるようにしております。

また、29年度の意味ですが、この計画は平成28年10月から平成29年9月までの運行分となっております。国の予算では、平成29年度予算から補助金が支出されますので、10月までに補助額の内定をいただいております。

続きまして、計画の内容について説明いたします。資料の5ページをお開きください。

まず、1. 目的と必要性では、高齢化率が高くなってきている本市において、高齢者を始めとする交通弱者の方たちの買い物や通院などの交通手段として、低運賃で乗車できるバスの運行が必要不可欠であり、そのために、この計画を安全で安心して利用できる公共交通機関の存続と市の活性化を図るための計画として、行政のみでなく地域住民及び交通事業者等が一体となって総合的に推進していくものとして位置づけております。

2. 定量的な目標・効果ですが、公共交通空白地域の解消、年間輸送人員、運賃収入の前年度並みの維持、高齢者等の社会参加の促進、というようにしております。また、事業の効果といたしまして、高齢者による交通事故をなくすため、マイカーなしでも通院や買い物が出来、快適に暮らせる地域づくりを目指しております。

次に、資料6ページの3. 運行システムの概要及び運行予定者及び4. 費用の総額、負担者及びその負担額については、別表1・2のとおりとなっておりますが、資料11ページ以降になります。これは許可運行系統別の経費についてまとめられたものです。

11ページをご覧ください。現在AコースとBコースで停留所の回り方がそれぞれ3パターンずつございまして、合計6系統となります。右から2番目の列には、先ほど説明しましたが、すべての系統でJR箕島駅と接続していることを記載しており、補助基準に適合していることを表しています。その表を平成29年度から平成31年度の3ヶ年分を添付しております。

次に、経費につきましては、14ページをお開きください。

複雑なものとなっておりますが、バスの走行キロ数、キロ当たり標準単価、補助対象経費の限度額などにより要綱で定められた算定を行っています。簡単に言いますと、これは補助金額を算出するもので、運行回数や運行距離、人件費など中紀バスさんの経営状況を踏まえた計算で出した金額と、別に地域上限額が決められておりまして、比較してどちらか少ない方となります。

その内容について具体的に説明させていただきます。15ページをお開きください。

今回、一番上の表を見ていただきますと、右から4番目のツの列、補助対象経費が合計37,274,000円となっております。その1/2の金額である18,637,000円を国の方で補助していただくということになります。それが、隣のネ欄です。それとは別に国庫補助上限額というのが決まっております、それが隣のナ欄の額5,712,000円となります。

補助対象経費の1/2の金額と国庫補助上限額のいずれか少ない方の額が国庫補助金内定申請額となりますので、5,712,000円が補助申請額となります。この表についても平成29年度から平成31年度の3ヶ年分を添付しております。補助上限額は、交通不便地域の対象人口を基に算定をしており、算定方法の詳細資料については、29ページから31ページに付けさせていただきます。

6ページにお戻りください。計画の4.に記載しているとおおり、有田市から運行事業者への負担金については、実績運行経費から国庫補助金を差し引いた差額分を負担することとしています。しかし、予算も限られているため、今のところ不足する額については事業者が負担するというようお願いしています。

次に6ページの中程、9. 地域の概要ですが、別表5のとおりとあります。20ページをお開きください。ここでは、直近の国勢調査人口を用いることになっておりますので、平成22年の国勢調査人口を使っています。有田市は市域全域が半島振興法に基づく半島振興対策実施地域となっておりますので、交通不便地域の人口は全人口の30,592人となり、先ほどの対象人口の数字となります。

また、6ページにお戻りください。下の方、14. 協議会の開催状況と主な議論では、平成19年4月1日に当会議が設置されてからの会議の開催状況と議題等を9ページまで記載しています。

9ページの15. 利用者等の意見の反映状況では、住民代表として連合自治会から3名の委員さんに参画していただいていること、その他意見を聞く体制が整っていることを記載するとともに、必要に応じてアンケート調査等を行っていることを記載しています。

21ページ以降には、時刻表、路線図、国庫補助上限額の資料、32ページから34ページに直近3年度分の利用者数の資料を付けさせていただいております。

以上で、説明を終わらせていただきます。

(成川議長)

議案第2号「平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画の承認について」の説明が終わりました。2号議案につきまして、皆様のご意見をよろしく願いいたします。

(成川議長)

利用客数については、前年度と比較してどのようになっていますか。

(事務局)

利用者数につきましては、資料の32ページから34ページに記載させていただいております。Aコース、Bコース、両コースの過去3年度分の数値になっております。

両コースにつきましては、前年度に比べて600名程増えているというような状況です。特にBコースの増加が目立っており、バス停別の乗降客数をみますと、高齢化率が高い地域や人口の減少が多い地域において、乗客数が増えているというような状況もみられました。

(成川議長)

人口が減少しているのに増えているというのはやはり利用される高齢者が増えてきているということですかね。病院への来訪者数も増えているというのものもあるかもしれないですね。

(事務局)

バス停別の乗車状況をみますと、当然市立病院といったような所も増えております。また、宮崎町にある人口の減少が目立つ地区においても増えているというような状況です。

(成川議長)

平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画について、他にご意見ございませんか。

(田中委員)

昨年、Aコース、Bコースのコースが変わったということで、Aコースがやや減ったということでしたよね。

(事務局)

平成25年度と平成26年度を比較すると減ったという状況でした。

(田中委員)

それでも両コースになると増えているということですよ。

(事務局)

そうですね。平成26年5月に路線の変更をしております、先程比較したのは、平成26年度と27年度の乗車人員です。ですので、同じ路線で比較すると若干増えています。その前の平成25年度と平成26年度を比較すると、少し減っているという状況です。路線改正後、合計の人数は減少しましたが、現在の路線においては、徐々に回復してきているというような状況です。

(田中委員)

それは、やはり高齢者が増えてきているということですかね。

(事務局)

突出してどこかの停留所が特に増えたというのは、特にみられませんが、病院や高齢化率の高い地区などにおいて、少しずつ増えているというような状況です。

(田中委員)

本来の目的に沿っているということですね。

(成川議長)

人口減少とは言いますが、高齢者は逆に増えていますからね。  
他にございませんか。

(加藤委員代理)

警察としましても、高齢者が増えている関係から高齢者事故が多いのでなんとかしようという動きになっております。運転免許経歴書と言って、免許証を返納した方に渡す証明書があれば、デマンドバス200円が100円になるということもやっております。それについてのチラシをことあるごとに配布したりしているのですが、現実のところ、運転免許経歴書を持っておられる方が、利用されてはいるのでしょうか。その辺りの把握などはされていますか。

(高垣委員代理)

中紀バスです。

少ないですけども、確かにいらっしゃいます。使われる方は、週に1回～2回、そんなに数はないのですが、いらっしゃいます。

(事務局)

事務局の方にも年に3件～4件ほど問合せがあったり、福祉課の方にも何件か問合せがあったというようなことは聞いております。

(加藤委員代理)

広報というかたちで、今日も折り込みチラシの方にも掲載させていただいております。高齢者の事故が増えているので、免許返納してもらったら、デマンドバスが安くなりますよという文言で載せさせていただいております。また広報も頑張っていきますので。

(成川議長)

大事なことなので、市も協力してやっていければと思います。  
他にございませんか。

(森下委員)

前回の議事録を読ませていただきまして、その時の先ほどのコース変更のことですか、その影響で若干減ったというようなところ、それから周知のために何かしなくてはいけないですよというようなものがありました。

病院等への結節の関係などで、Bコースの方は現状維持で、Aコースの方は減っていますと、前回の分では記載されていたと思います。

今回のこれを見させていただきますと、同じようなかたちで26、27年度を整理されている中で、大・小・幼・障などの分け方をされている中で、大の方が、Aコースの方では500名ほど減っておられますが、その理由、中身を検証されておられるのかなというのがひとつです。

それから障害者の方がAコースの方では300名ほど増えておられて、Bコースの方が800名ほど増えられている、なにか施設ができたとか、便利な通える所が増えたというようなことであるとか、現状把握をなにかされているのであればお教えいただければと思います。

(事務局)

先ほどとも重複をしますのですけれども、具体的に増えているのは市立病院や矢櫃のバス停などです。

ただその他、Bコース内のバス停から乗られる方というのは、どのバス停からも均等に増えています。AコースBコース内に大きな施設ができたかと言いますと、箕島駅前に1軒病院が移転しましたが、それが影響しているのかどうかは何とも言えないというところです。それぞれの増減については、詳しい分析はできていません。

(森下委員)

Aコースが引き続きまた減ってしまっているの、なにか原因があるのかなと気になりました。

(成川会長)

Aコースは鉄道駅が3駅あり、比較はできないですが、それも影響しているのかなと思います。

(事務局)

26年5月にダイヤの改正があり、26年度と27年度全体で比較すると減ってはいますが、最近の傾向をみますと、増加基調にあります。今後の推移をみなければ、きちんとご説明する状況には至らないのですが、ここ最近の状況から言いますとAコースについても若干増えてきているという状況です。

(成川議長)

Bコース内に最近大型のドラッグストアなどができたり、スーパーマーケットなどの商業施設等が集中している地域がありますので、その辺りの利用度も高いのかなと思います。

(森川委員)

前回の記録の中で、利用促進をする中で広報であるとか、なんらかの対策をと書いてありましたので、もしこんな事をやりましたとか、こんな事を考えていますというようなことがあればお教えいただければと思いました。

(成川会長)

利用促進ではどうですか。

(事務局)

先ほど加藤委員代理からお話がありましたが、免許返納者の方に対するデマンドバスの利用というのはぜひ進めていきたいということで、今年の春の交通安全運動の重点項目が「子どもと高齢者の事故防止」ということで、他の課が行っている街頭啓発の際にデマンドバスの時刻表も一緒に配布をするなど、広く利用していただけるようにそのようなこともしております。

(田中委員)

昨年自治会の方でも、アピールするものがあれば回覧とかの協力をしますということでしたので、またそのようなことも考えているのであれば受けるのは問題ないです。

(後藤委員)

今自治会の方から発言がありましたように、自治体と交通事業者だけではなかなか利用促進というのはうまくいかないかなという風に思っています。

国の方向性でも、地方公共団体が先頭に立って地域公共交通を考えるということにはなっているのですけれども、それは交通事業者、地元住民の方々が協力をして利用促進に取り組んでいくことが、コミュニティバスを維持していくには必要不可欠だというようなことになっております。今も実際利用される方は増えておりますし、先ほど免許返納の関係で利用促進等もされていたり、自治会の方からも協力させてもらおうというお話もありましたので、ぜひ連携協力した取組をひとつでもふたつでも取り組んでいただいて、利用者を増やしていただきたいという風に思っております。

(成川議長)

他にございませんか。

(意見、質問等なし)

(成川議長)

議案第2号「平成29年度地域内フィーダー系統確保維持計画について」ご承認いただけますか。

(異議なし)



(成川議長)

本日の議案はこの2件で、その他事務局からなにかありますか。

(事務局)

特にありません。

(成川議長)

せっかくの機会ですので実際に運行されている中紀バスさん、なにか気づいたこと等がありましたらお願いします。

(高垣委員代理)

事務所の電話にもご利用されている方からここへ行ってほしいというような声も頂戴しておりまして、それはまた次回のコース変更の時などに参考にさせていただきますという風にお返事させていただいています。それはまた現場の運転手とも相談しながら、こうした方がいいのではと検討しているところです。

将来的な話になるかと思いますが、この有田市のデマンドバスも国から補助をいただいてなんとかやっているような状況なのですが、その補助の金額がだいぶ厳しいようなことをお伺いしております。

当社といたしましても、この事業で儲けようとかそのような気はもちろんありませんので、少なくとも運転手の給料や燃料代を払って、バスを運行できるくらいの補助がいただけるようななんとかやっていたいただければなと思っています。将来的な話になるかとは思いますが、ただ10年20年先というわけでもない話です。

(後藤委員)

今、国の補助金の話がでましたので説明をさせていただきたいと思います。

国の補助金につきましては、法律や予算の関係から今後も年々減っていく傾向になっております。予算はほぼ横ばいになっていまして、どこの自治体も地域公共交通の維持に非常にご苦勞をされておりまして、少しでも国の補助を受けながら維持確保していきたいということで、補助系統数や補助を求める協議会数というのは増加の一途をたどっているところです。予算は横ばいですので、自ずとどこの自治体にも補助を出そうと思えば一律下げていかなければ仕方ないということになっています。

方向性としては、平成25年12月に交通政策基本法というのができまして、名前の通り交通政策の基本という法律なのですが、人口減少の社会が進む中で、どのように公共交通を維持していくのかということについて、先ほども少し申しましたけれども、国とか地方公共団体、交通事業者、住民の方々や利用者の方々が役割分担をしながら連携協力をして維持していきましようということになっています。

地域公共交通活性化再生法という交通政策基本法の理念を実現する為の法律なのですが、地域の総合行政を担う地方公共団体が先頭に立って一緒に交通事業者、住民の方々といった地域間の関係者が知恵を出し合って、持続可能な交通網をつくっていきましようという計画をつくるようになっていまして、その法律の主旨に従いまして、計画をつくったところに重点的に支援をしていくという方向性になっています。

有田市におかれましてはそういう点をご理解いただいて、地域公共交通ネットワークの再構築に向けた計画をつくっていくような取組を積極的に進めていただければと思います。

(成川議長)

ありがとうございます。先ほどの中紀バスさんのお話と今のお話、市としましても、新しいネットワークの総合計画をつくるというのは大事なことだと思いますので、そこは運行事業者とよく協議させていただいて、検討していきたいと思います。

他にございませんか。年に二回の会議で、なかなかこういう機会はないので、色々なご意見をいただくのですが、先ほど紹介していましたが事務局はほぼ毎日おりますので、お電話等で色々とお問い合わせいただいでより良いものにしていきたいと思っております。特に、デマンドバスを知らないとか乗ったことがないという人が多くいると思いますので、色々な機会を通じて皆様と連携してPRに努めて利用客を増やすということが大事なので皆様にご協力いただいで進めていきたいと思っております。

皆さん長時間ありがとうございました。本日は以上で会議を終了させていただきます。今後ともよろしくお願いたします。

## 5. 閉会